

化学教育 徒然草



— 新しい生活 —

KADOTA Isao

門田 功

岡山大学大学院自然科学研究科 教授
中国四国支部 化学教育協議会議長 (2020~2021 年度)



巻頭言

昨年暮れからの新型コロナウイルスの感染拡大は、年が明けて客船での集団感染が大きな話題となった。当時、この感染症が我々の生活を一変させることになるとは誰も予想できなかっただろう。新年度が始まっても大学は入学式もないまま休講となり、再開された授業もオンラインに限定されてキャンパスは空っぽである。当初は高温多湿になる夏までには収束するだろうという期待もあったが、この原稿を書いている8月中旬ではむしろ拡大傾向にある。秋の学会などは延期やオンライン開催となり、出張なども制限されている。

様々な不便がある一方、考えるべきこともあった。新年度からのキャンパスライフを思い描いていた新入生は本当に気の毒であるが、オンデマンドの授業は復習が容易で理解が進むという声もあった。会議などもオンライン化されることで随分時間が短縮された。しかし、化学実験は学生自身の手で行わねばならないことも多くオンライン化が難しい。教員も近くで指導しなければならず、こればかりは感染のリスクを可能な限り抑えながら進めるしかない。

今年は感染が拡大するギリギリのところに入試を終えることができたが、来年の入試はどうだろうか。冬に向けて状況が悪化したらと思うと心配である。加えてインフルエンザとノロウイルスにも気を配らないといけない。

心配事の多い一方で、少し前向きな話題もあった。新型コロナに対する日本の対応が世界で評価されているらしい。当初は緩い規制などが批判されていたが、蓋を開けてみると欧米と比較して感染者、死者の数が桁違いに少なく抑えられている。色々分析されているが、日本人特有のキレイ好きが感染予防に役立ったというのが大方の見方である。狭い国土の中で密集して生活している日本人ならではの生活習慣が役に立ったようだ。

治療薬やワクチンに期待する声もあるが、この新しい生活は当分続きそうである。嘆いていてもしょうがないので対応しなければならない。学生にはメンタル面も含めて十分な配慮とサポートが必要だろう。また、留学を含めた国際交流のあり方についても考えないといけない。新しい生活を実践していくための課題は多い。

[連絡先]

700-8530 岡山県岡山市北区津島中 3-1-1 (勤務先)